

離島における薬剤師不足解消への取り組み



参議院議員・薬剤師 神谷政幸

令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問しました。前回はドローンを利用した医薬品配送についてご紹介しました。今回は病院薬剤師の派遣事業をご紹介します。

長崎大学病院薬剤部では2019年10月から福江島の富江病院に現在まで延べ9名の薬剤師を、中通島の上五島病院には2022年10月～2023年6月まで延べ2名の薬剤師を派遣してこられました。

富江病院は薬剤師1人施設です。薬剤師の派遣期間は約半年間で、内服・外用調剤、注射薬調剤、麻薬管理、抗がん薬管理、医薬品の購入管理、そして外来患者の服薬指導など、幅広い業務を行っています。医師、看護師、検査技師などの多職種はもちろん、近隣の保険薬局とも密接に協力して仕事に取り組んでおられました。

院長先生は、派遣薬剤師が調剤業務のほかマニュアルの整備や看護師向けの資料作成、バンコマイシンの投与設計なども行っており、大学病院で教育を受けた薬剤師が地域の病院に派遣されることで、抗がん薬や麻薬などの薬物療法に関する知識が充実し、職員の薬物療法に対する意識も向上していると評価されました。また、医療安全の面でも良好な結果が得られています。離島では人材が少なく、薬剤師1人の施設では採用が非常に難しく、薬剤師の教育も困難です。大学病院からの薬剤師派遣は非常に助かっているとおっしゃっていました。

上五島病院では、複数の薬剤師が配置されています。奨学金制度を利用して、今後、数名の薬剤師の採用が確保されてはいるものの、将来を見据えて継続的に薬剤師を採用し続けることが重要と伺いました。薬剤師確保のための対策は取られていますが、まだ十分とは言えません。政治の立場からもしっかりと支援してまいります。

結びに、この場をお借り致しまして、今回の視察にご尽力いただきました長崎大学病院の大山薬剤部長と日本病院薬剤師会の武田会長に御礼を申し上げます。

